

# 審査総評

審査委員長 蜂谷 俊雄

今回は一般部門で 7 点、住宅部門で 6 点の応募がありました。審査員 6 名は各自に異なるキャリアで培った見識をもとに作品を評価し、推薦する作品の何に価値を見出したかについて意見交換を行いながら審査を進めました。

1 次審査は応募書類で行い、一般部門は 7 作品中 4 作品、住宅部門は 6 作品中 4 作品が現地審査の対象に選ばれました。現地審査は 2 日をかけて 8 作品を見て回り、事業主や設計者との質疑応答も行いました。最終審査会では 8 作品について意見交換を行った後に、6 名の審査員が各作品に点数をつけ、合計点数の高い 4 作品を入賞作品に選びました。次に 4 作品の中から優秀賞を 2 作品、入選を 2 作品選びました。

一般部門では、公共の大規模施設でなければ入賞は難しいのではないかという認識がなくなり、様々な規模・種別の建築の応募がありました。優秀賞に選ばれた「花水木ノ庭（広場路の長屋）」は、敷地内で完結することなく、街の賑わいや人々の活動を誘発する斬新なコンセプトを実現し、小規模民間施設でも地域に貢献できることを示す秀作でした。入選に選ばれた「砺波市立砺波図書館」は、大屋根の下の本に囲まれた大空間が魅力であり、景観・計画・技術・環境など、現代の公共施設に求められる要件を高い水準で満たしていました。

住宅部門では、新築・改修を問わず、施主の夢の実現に応える設計者のデザイン手法の違いを見比べることができました。優秀賞に選ばれた「クラハウス」は、明治期・昭和期の土蔵空間に居住空間を挿入し、さらに令和の表現を付加することで、時間軸を挿入された住空間の魅力を感じました。入選に選ばれた「庭を眺める家」は、伝統的日本住宅の部分改修ですが、伝統的表現の良さを次の時代にも継承しようとした姿勢やその技術が評価されました。

入賞にはなりませんでしたが、子供たちが楽しめる様々なアイディアを盛り込んだ「ナツドマの家」や、地方都市の建設会社の社屋イメージを開放的な空間に変えようとした「株式会社藤井組新社屋」も優れた作品でした。

優れた建築に百点の答えはありません。建築の評価は、時代背景や場所性、見る人の見識により異なります。一つひとつの作品の背後には図面や写真では表現できない様々な苦労があったはずです。現地審査での質疑応答から、この時代、富山県という場所で関係する方々が何を夢見て様々な困難を克服されたかを見極めようとしました。現地審査に常連のように説明に来られている設計者の熱い思いを聞いてみると、富山県建築文化賞に応募してアピールできることが、富山県で頑張る設計者の一つの目標になっているように思いました。

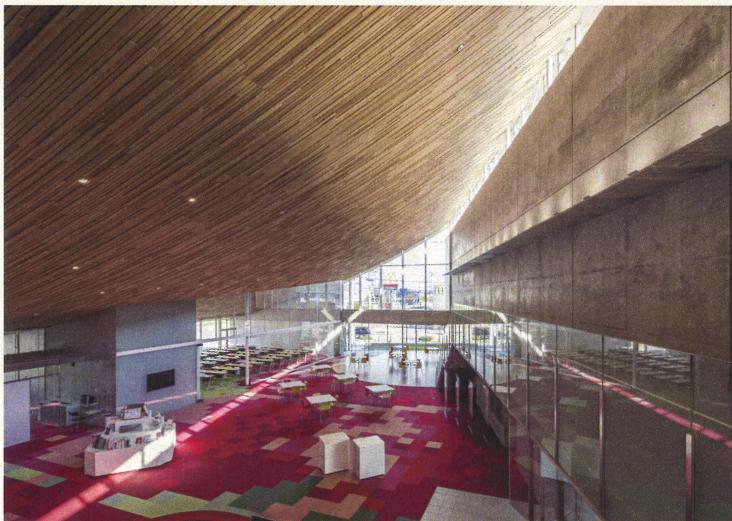


砺波市の中心部で、チューリップ公園や四季彩館、文化会館、砺波高校などの観光施設や文教施設の近くに新たなランドマークとして誕生した市立図書館。

館内は、緩やかに弧を描く杉板の乱張りで仕上げた一枚の大天井で覆われ、西側1階の閲覧室から東側2階の学習コーナーに至る大空間は、莊厳さを醸しながらも暖かい雰囲気で来訪者を包み込みます。

外に出て国道156号側から外観を眺めると、水平ラインを強調したガラスの連窓が外部と内部の一体感を生み出し、明るく来訪者を迎える。この建物の特徴である、捻じれた曲面の屋根は全体的に緩い勾配で、黒を基調としたシックな仕上げにより圧迫感を全く感じさせず、中に大空間があることを不思議に感じます。

空調には地中熱利用のシステムを採用し、バックヤードを除く大部分の空調エネルギーを地中熱で賄い、環境にも配慮したサステイナブルな施設となっています。



運営面では新しい蔵書の検索システム導入や、講演会・朗読会など各世代が参加できるイベント開催など積極的な活動で、開館5ヶ月で来館者10万人を達成したということです。この図書館がこれからも永く市民に愛される、新しい文化の発信拠点になってくれると確信しています。  
(沖村 実)

所在地	富山県砺波市幸町4-1
建築面積	2819.48 m <sup>2</sup>
延床面積	3342.62 m <sup>2</sup>
竣工	2020/7/30

建築主	砺波市
設計者	三上建築事務所・押田建築設計事務所建築関連業務共同企業体
施工者	佐藤工業・砺波工業共同企業体